

課題番号：LZ005
助成額：107百万円

ライフ・イノベーション

人文社会系

平成23年2月10日
～平成26年3月31日

看護卒後教育によるmid-level provider育成と医療提供イノベーション

井上 智子 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所 教授
Tomoko Inoue

WEBページ
<http://www.adnr.jp/>



研究背景

日本の医療が抱える、①医療へのアクセス困難（開業医と高機能病院への二極化）②在院期間短縮と在宅医療へのシフト③医師完全主導型（すべてに医師の指示が必要）医療の限界、への対応が求められている。看護卒後（大学院）教育により専門看護師が誕生しているが、現行法下での活動には限界がある。

研究目的

新たな看護卒後（大学院）教育の検討として、1.日本における高度実践看護師のあり方を明らかにする。2.高度実践看護師育成に向けた専門看護師等へのオンラインによる教育（内容・方法）を開発・実施する。3.高度実践看護師を核とした日本における新たな医療提供システムについての提言を行う、ことを目的とする。

実績

代表論文：「看護師の役割拡大とクリティカルケア領域での未来像、一特定看護師（仮称）創設の動きの中で」日本クリティカルケア看護学会誌、7(1)1-7、(2011)
一般雑誌：機関誌「APN」を創刊（第5号まで発行）
特記事項：文部科学省のインターンシップ（平成24年度）で競争的資金獲得者として看護教育専門官と学生の訪問を受けた。

研究成果

本邦の高度実践看護師のあり方の検討

シンポジウム・フォーラム等により、高度実践看護師の必須能力(Core Competency)と、実践領域(Scope of Practice)を検討し、①軽度な健康問題への医療処置を含む対応、②看護ケアを伴う安定した慢性病者への薬剤処方等、③医療アクセス度を高めるための積極的参加等の可能性が明らかとなった。

高度実践看護師を核とした新たな医療提供システムの提言

専門看護師への聞き取り調査や全数調査から、看護（ケア）と医療処置（キュア）の融合による中核4要素を含む役割拡大の内的構造が、また「在宅療養者の検査の実施判断：医療過疎への進出」、「脱水のアセスメントと輸液実施・緊急時の救命のための対応」、「がん転移の苦痛緩和薬の調整：個別ニードへの細やかな対応」等が役割拡大の核となり得ることが明らかとなった。

2020年の
応用展開

教育を受けた看護師の特に診療の補助行為への役割拡大により、①療養生活にあった医療材料・薬剤選択と効果のアップ、②医療へのアクセス時間の短縮、③看護専門

教育プログラム開発とオンライン教育の実施

共通科目（3科目）のシラバス作成とともにオンライン教育を実施し、受講者はこれまでに約500名に達している。

№	共通科目	科目名	担当者	履修者数	評価
1	共通科目	看護実践の基礎	井上 智子	100	4.0
2	共通科目	看護実践の発展	井上 智子	100	4.0
3	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
4	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
5	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
6	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
7	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
8	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
9	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
10	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
11	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
12	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
13	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
14	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0
15	共通科目	看護実践の応用	井上 智子	100	4.0

共通3科目のシラバス

年度	シンポジウム	フォーラム
2011	第1回 2011.3.3 「働き出す高度実践看護師のあり方」	第1回 2011.3.13 「全学対談」 第2回 2011.3.20 「これからの高度実践看護師の役割」
2012	第2回 2012.1.21 「看護における高度実践看護師の役割」	第3回 2012.12.20 「全学対談」
2013	第3回 2013.1.23 「在宅における高度実践看護師の役割」	第4回 2013.12.14 「全学対談」
2014	第4回 2014.1.23 「在宅における高度実践看護師の役割」	第5回 2014.12.14 「全学対談」

シンポジウム・フォーラムの構成

外来での新たな医療提供が可能となるが、医師からの譲渡ではなく看護師がケアの拡大・発展させる形で医療行為を行える体制作りを目指していく。